

2018年は個人研究として、「みる」ことをキーワードとした作品5点を制作した。また、昨年に引き続き点光源による影のプロジェクションによるインスタレーションを新作を含め制作・展示したほか、演劇の中に同手法を適用する試みを行った。なお、展示活動等は学内外を問わず「クワクポリョウタ」名義で行なっている。

学外での活動（展示）

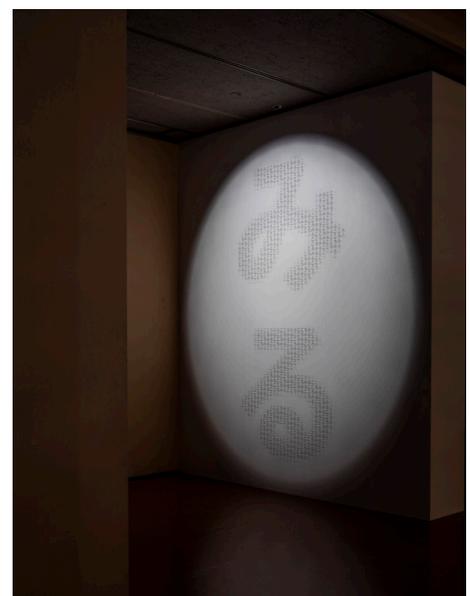
1 『IAMAS ARTIST FILE #06 みるころみるかえりみる』（岐阜県美術館、2018/9/8~11/3）



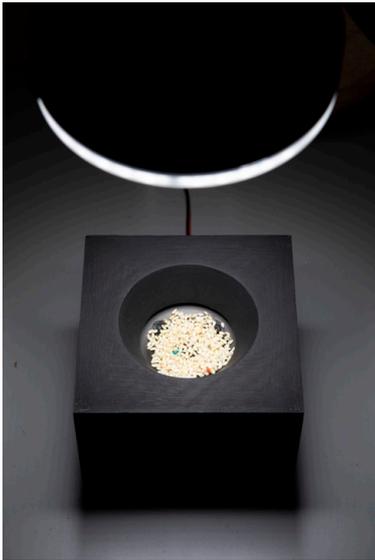
《みる一幕》撮影：今井 正由己（6点とも）

毎年度、岐阜県美術館で開催している『IAMAS ARTIST FILE』の枠組みで筆者とミュージアムエデュケーターの会田大也との2人展として『みるころみるかえりみる』と題した展覧会を行った。この展覧会は「あたらしいTOYプロジェクト」の履修学生とともに制作・設営を行ったため、展覧会全体については「あたらしいTOYプロジェクト 2018年度活動報告書」にて報告を行うこととし、ここには筆者が出品した個別の作品についてのみ掲載する。

本展で筆者は5点の立体作品と1点のサインを制作した。それぞれが「みる」という行為の様々な様相を喚起することをテーマにしている。本展覧会が作品展示とワークショップとの相互作用を前提としていることから、作品は鑑賞者の思考の基点となるべく、視覚的にも意味的にも余白のある構成とした。



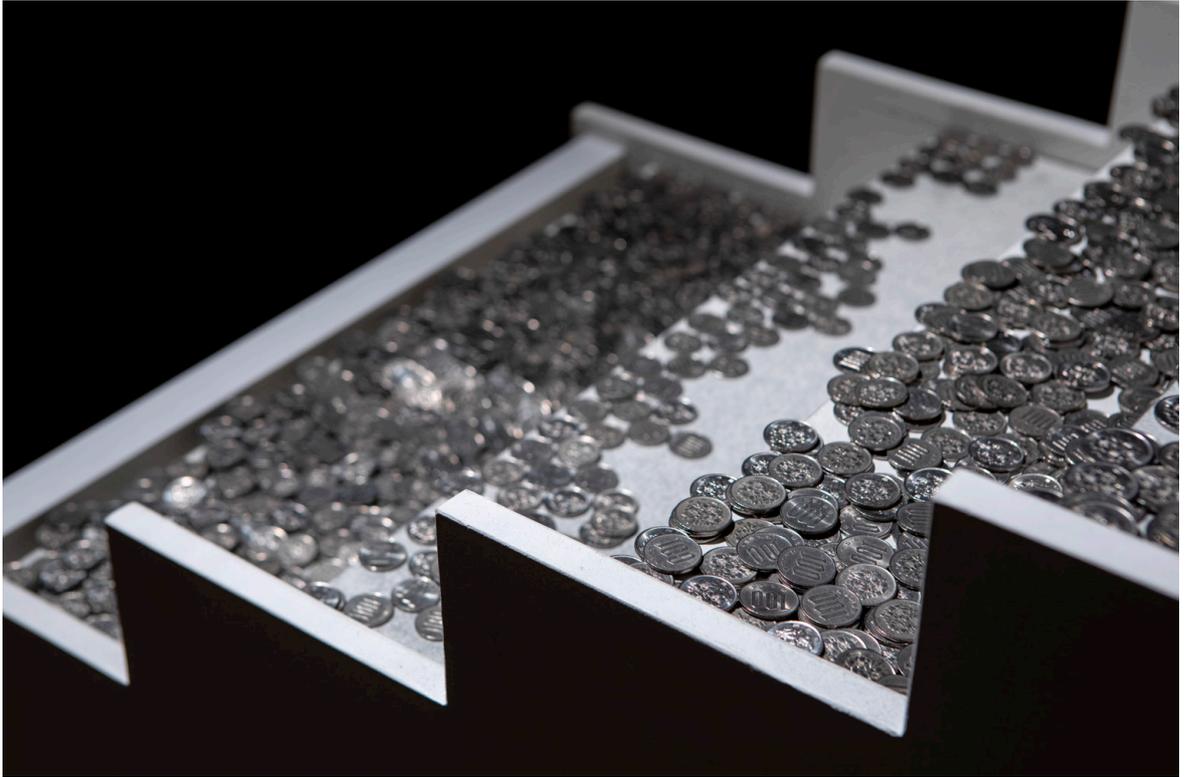
「みるころみるかえりみる」サイン



《みる-粒子》



《みる-時刻》



《みる－硬貨》



《みる－曲面》

2

『Instrumenta Sandbox 2018』
(National Gallery of Indonesia、ジャカルタ、2018/11/11~30)

インドネシアのジャカルタで開催されたメディア・アートの展覧会に参加し《10番目の感傷（点・線・面）》を展示した。
現地には他の校務との兼ね合いで二度渡航し、第一回目の11/6~11/9の滞在で設営を、その後会期中の11/27~29に全体の展示を視察した。その後Jakarta Art Instituteでの講演と、アーティスト・コレクティブ ruangrupaを訪問した。

関連リンク：<https://instrumenta.art/en/>

3

『クワクポリョウタ展 みえるものすべて』
(大垣市スイトピアセンター・アートギャラリー、2018/12/15~2019/1/20)



《以心分身》 撮影：山口伊生人

大垣市スイトピアセンター・アートギャラリーで個展を開催した。
影を用いた3つのインスタレーション—《10番目の感傷（点・線・面）》、《忘れ物取扱所》、《以心分身》を展示または再構成の上で展示した。
また、展覧会に先立ってワークショップを開催し、そこで作られた一般参加者の作品も同時に展示した。

12/16には会場ホールでアーティスト・トークを開催した。



ワークショップの様子

4 『文化庁メディア芸術祭須賀川展 創造のライン、生のライン』
(須賀川市民交流センターtette、2019/2/27~3/17)

《10番目の感傷（点・線・面）》を展示した。

関連リンク：<https://megei-sukagawa.info/>

5 劇団うりんこ「幸福はだれにくる」（うりんこ劇場、2019/3/1~4）

名古屋市を拠点に活動する劇団うりんこの公演（演出：三浦基）において舞台上の映像美術を担当した。本公演は2019年夏の『あいちトリエンナーレ』での発表される作品のワーク・イン・プログレス公演である。



6 『あした ときのう の まんなかで』（はじまりの美術館、2019/4/6~7/7）

3月末に現地滞在し、同美術館内の展示室に《LOST #14》を制作した。（公開は2019年度）